有価証券②

売買目的有価証券の期末評価

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　売買目的有価証券の期末評価の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「売買目的有価証券」勘定（資産）

「有価証券評価益」勘定（営業外収益）

「有価証券評価損」勘定（営業外費用）

「有価証券評価損益」勘定

（1）決算時の処理

売買目的有価証券は決算時に帳簿価額を**時価**に修正します。これを売買目的有価証券の**期末評価**（**評価替え**）といいます。時価の金額に修正しますので**時価法**ともいわれます。この処理は**決算整理**として行います。

帳簿価額より時価が高い場合には、その差額（評価差額といいます）を「**有価証券評価益**」勘定（**営業外収益**）に計上します。また、帳簿価額より時価が低い場合には、その差額を「**有価証券評価損**」勘定（**営業外費用**）に計上します。なお、一会計期間に有価証券評価益と評価損の両方が生じた場合には、通常、損益計算書においては評価益と評価損を相殺して、純額で表示します。そこで、「**有価証券評価損益**」勘定を用いる場合もあります。

取得原価 **＜** 時価（**高く評価**）　→　有価証券評価**益**
取得原価 **＞** 時価（**低く評価**）　→　有価証券評価**損**

（2）翌期首の処理

評価差額の処理として、①洗替方式と②切放方式があります。

① 洗替方式

洗替方式とは、当期末に時価評価したとしても、翌期首に帳簿価額を取得原価に戻す処理を行う方法です。したがって、翌期首に決算整理の反対仕訳である**洗替処理**を行います。

② 切放方式

切放方式とは、当期末に時価評価したならば、翌期は当期末の時価を帳簿価額とする方法です。したがって、翌期首に洗替処理は行いません。

例題　**売買を目的として取得したA社株式（取得原価1,600円）の期末における時価は1,700円であった。（A）洗替方式で処理した場合、（B）切放方式で処理した場合の仕訳を答えなさい。なお、有価証券評価損益勘定を用いること。**

決算整理前残高試算表（一部）

売買目的有価証券	**1,600**		

①　決算整理（洗替方式も切放方式も同じ）

借方科目	金額	貸方科目	金額
売買目的有価証券	**100**	**有価証券評価損益**	**100**

有価証券評価損益：時価1,700－取得原価1,600＝100

②　決算整理後残高試算表（洗替方式も切放方式も同じ）

「有価証券評価損益」勘定が貸方残高の場合、損益計算書には「有価証券評価益」として営業外収益に計上します。

決算整理後残高試算表（一部）

売買目的有価証券	1,700	有価証券評価損益	100

③　貸借対照表（洗替方式も切放方式も同じ）

貸　借　対　照　表（一部）

売買目的有価証券	1,700		

④　翌期首（洗替処理）

（A）洗替方式

借方科目	金額	貸方科目	金額
有価証券評価損益	**100**	**売買目的有価証券**	**100**

これにより、帳簿価額は取得原価1,600円となります。

（B）切放方式

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕　訳　な　し			

これにより、帳簿価額は前期末時価1,700円となります。

例題　**売買を目的として取得したB社社債（取得原価9,700円）の期末における時価は9,500円であった。（A）洗替方式で処理した場合、（B）切放方式で処理した場合の仕訳を答えなさい。なお、有価証券評価損益勘定を用いること。**

決算整理前残高試算表（一部）

売買目的有価証券	**9,700**	

①　決算整理（洗替方式も切放方式も同じ）

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
有価証券評価損益	**200**	**売買目的有価証券**	**200**

有価証券評価損益：取得原価9,700－時価9,500＝200

②　決算整理後残高試算表（洗替方式も切放方式も同じ）

「有価証券評価損益」勘定が借方残高の場合、損益計算書には「有価証券評価損」として営業外費用に計上します。

決算整理後残高試算表（一部）

売買目的有価証券	9,500	
有価証券評価損益	200	

③　貸借対照表（洗替方式も切放方式も同じ）

貸　借　対　照　表（一部）

売買目的有価証券	9,500	

④　翌期首（洗替処理）

（A）洗替方式

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
売買目的有価証券	**200**	**有価証券評価損益**	**200**

これにより、帳簿価額は取得原価9,700円となります。

（B）切放方式

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
仕　訳　な　し			

これにより、帳簿価額は前期末時価9,500円となります。

満期保有目的債券の償却原価法

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　満期保有目的債券の期末評価の内容を理解しよう！

②　償却原価法の内容を理解しよう！

③　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「満期保有目的債券」勘定（資産）

「有価証券利息」勘定（営業外収益）

（１）期末評価

満期保有目的債券は、債券を満期まで保有しますので、売買目的有価証券と異なり、売却を想定していません。したがって、時価を把握する必要はありませんので、**取得原価**で評価します（決算において時価評価しません）。

（２）償却原価法

額面金額と取得原価の差額である取得差額が**金利の調整**（券面利子率と市場金利等との調整）と認められる場合には、**償却原価法**（しょうきゃくげんかほう）を適用します。

償却原価法とは、債券を額面金額より低い価額又は高い価額で取得した場合において、取得差額を償還期に至るまで毎期一定の方法で貸借対照表価額に加減する方法をいいます。なお、当該加減額は**有価証券利息**に含めて処理します。債券を額面金額より低い価額で取得した場合の償却額に関する**決算整理仕訳**は以下となります。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
満期保有目的債券	×××	**有 価 証 券 利 息**	×××

償却原価法には利息法（りそくほう）と定額法がありますが、２級では**定額法**を学習します。

定額法とは、債券の取得差額を取得日から償還日までの期間で除して各期の損益に配分する方法をいいます。償却額の算定は以下の式で行います。

$$\textbf{償却額} = (\textbf{額面金額} - \textbf{取得原価}) \times \frac{\textbf{当期の所有月数}}{\textbf{取得日から償還日までの月数}}$$

例題　**2031年1月1日に満期保有目的で、社債額面10,000円（額面100円につき97円）を現金で購入した。利率は年２%、利払日は12月末、償還期限は2033年12月31日である。決算日は12月31日である。**

①　取得時（2031年1月1日）

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
満期保有目的債券	**9,700**	**現　金**	**9,700**

満期保有目的債券：額面10,000÷@100×@97=9,700

②　利払日（2031年12月31日）

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
現　金	**200**	**有価証券利息**	**200**

有価証券利息：額面10,000×２％＝200

③　決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

満期保有目的債券	9,700	有価証券利息	200

④　決算整理（2031年12月31日）

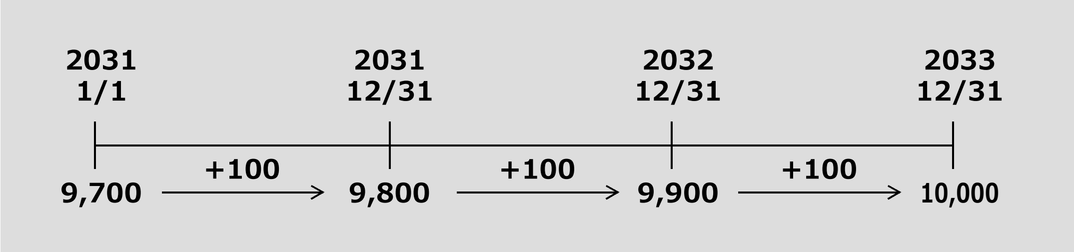
借方科目	金　額	貸方科目	金　額
満期保有目的債券	**100**	**有価証券利息**	**100**

満期保有目的債券：(額面10,000－取得原価9,700)÷36ヶ月×12ヶ月=100

⑤　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

満期保有目的債券	9,800	有価証券利息	300



例題　**2031年10月1日に満期保有目的で、社債を9,730円(額面10,000円)で購入し、端数利息150円とともに現金9,880円を支払った。利率は年２%、利払日は12月末、償還期限は2033年12月31日である。決算日は12月31日である。なお、端数利息も月割計算すること。**

①　取得時（2031年10月1日）

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
満期保有目的債券	**9,730**	**現　金**	**9,880**
有価証券利息	**150**		

有価証券利息：額面10,000×2%÷12ヶ月×9ヶ月=端数利息150

②　利払日（2031年12月31日）

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
現　金	**200**	**有価証券利息**	**200**

有価証券利息：額面10,000×２%＝200

③　決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

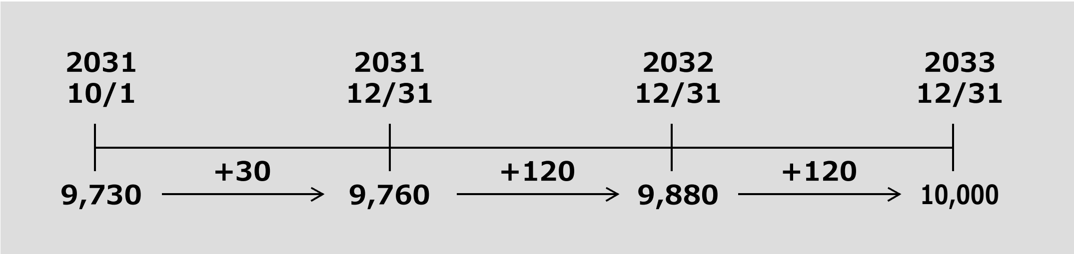
満期保有目的債券	9,730	有価証券利息	50

④　決算整理（2031年12月31日）

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
満期保有目的債券	**30**	**有価証券利息**	**30**

満期保有目的債券：(額面10,000－取得原価9,730)÷27ヶ月×3ヶ月=30

⑤　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

満期保有目的債券	9,760	有価証券利息	80